

努力で紡ぐ平和な未来

一宮市立南部中学校

三年

岡庭おかたにわ

陸巧りくく

終戦から八十年。ぼくたちはまだ、平和な

世界に生きているとはいえない。

僕の曾祖父は、十七歳で志願し陸軍特別幹

部候補生として戦争に参加した。戦闘機の機

関銃砲の整備を担い、終戦後はソ連で抑留さ

れた。曾祖父と訪れた舞鶴引揚館に始まり、

原爆ドームやひめゆりの塔など、戦争に関す

る様々な施設を訪れたおかげで、戦争の悲惨

さに触れ、僕は絶対に戦争をしてはいけな

いと思っていた。平和について考えた小学六年

生の僕にとって、曾祖父のことは大好きだ。

だが、正直に言えば、嫌々戦争に行つたわけ

ではないことが理解しがたかった。

だが、今の僕の考えはそうではない。僕は

戦争をしないと言いつつ切れないのだ。

僕が進んで人を殴ることは絶対はない。だ

けど、もし家に強盗が入って、家族が殴られ

ていたらどうだろうか。家族を守るためにき

と僕は戦うと思う。戦争も同じことだし
たら、やらないと言える自信がない。曾祖父
が志願したのも、家族や国を守るためだった
のだろう。日本人の大多数は、戦争に反対し
ているが、日本が攻められたとき、同じ考え
でいられるだろうか。きっと日本が侵略され
るのを黙って見てはいられないはずだ。日本
は平和だと言われているが、実はすぐ近くに
戦争がたたずみ、こちらの様子をうかがって
いるだけかもしれない。

この夏、僕は大阪・関西万博を訪れた。文
化や芸術、工芸品の魅力を発信するパビリオ
ンが多い中、ウクライナ館では、悲惨な現実
の映像や銃撃されたスピーカーの展示があっ
た。戦争は過去の出来事ではなく、この瞬間
にも実際に起こっていることなのだ。今まで
通りの生活を送っている僕にとって、遠い
国の話で、他人事と感じていたのだ。まさに
これは、戦争がなくならない一つの要因では
ないのだろうか。戦争は対岸の火事ではない。

自分のこととして考えることが必要だ。

戦争のない平和な世界の実現のために、何ができるのだろう。

もし、国会で戦争をすることが決まれば、ぼくたちはそれに従うしかない。そうならな
いために、戦争を回避した外交を行う政治家
を選ぶことが重要になる。あと三年もしたら
僕にも選挙権が与えられる。権利を慎重に行
使することが、平和な社会を継続する一助に
なるのではないかと思う。

また、日本が侵略されないために、日本の
価値を上げることが重要ではないだろうか。

日本には伝統的な文化や食事、素晴らしい景
色がある。日本人は礼儀正しく親切で、勤勉
である。僕は思う。個人個人の努力によっ
て人としても国としても、今ある魅力を増大し
ていけば、日本が世界中から愛され大切にし
てもらえるのではないか。平和につながると
信じて、世界や社会や歴史を深く学び、道徳
心を育むことが、今の僕がするべきことだ。